

No.146  
令和7年2月6日



議会だより、定例会一般質問動画は松崎町議会ホームページでも視聴可能です。



松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

「消防団出初式パレード」



# 議会だより

松崎

## 《主な内容》

### 第4回定例会 (12月3日～12月4日)

- 1 一般会計補正予算など.....
- 2 常任委員会視察研修・議員研修会.....
- 4 町政を問う 一般質問に7議員.....
- 5

# 令和6年第4回定例会

令和6年第4回定例会が12月3日から2日間にわたり開催されました。  
今回の定例会では、一般会計補正予算など7議案を審議し、いずれも原案のとおり可決しました。

## 一般会計補正予算

補正予算(第5号)は、歳入歳出に1億2271万円を追加して補正後の額を48億2848万円(2.6%増)とした。

### 《歳入の主なもの》

- 増額分
  - ・ 県営事業軽減交付金などの県支出金
  - ・ 地方交付税(未計上分)
  - ・ 前年度繰越金(確定額)
  - ・ 過疎対策事業債などの町債
- 減額分
  - ・ 障害児通所給付金等負担金、道路補修事業交付金などの国庫支出金
  - ・ 財政調整基金(歳入歳出差額の余剰金分)

### 《歳出の主なもの》

- 増額分
  - ・ 県営中山間地域農業農村整備事業負担金
  - ・ 住基ネット関連機器更新業務委託
  - ・ 制度改正に伴う児童手当
  - ・ 民芸館のモニユメント塗装改修工事
  - ・ 後年の大型除却事業に備えるための過疎地域持続的発展特別事業基金積立金
- 減額分
  - ・ 町道補修工事
  - ※庁舎空調設備改修工事、内沢川護岸改修工事、インターネット接続用パソコン購入など3事業を令和7年度への繰越明許とした。

**問** 地方創生人材支援制度の負担金が4人分から3人分に減った経緯は。また、来年度は応募の申請はするのか。

**答** 副町長 内閣府に申請して民間企業などとのマッチングで合意すれば派遣してもらうが、美しい村推進関係で最終的な合意ができなかった。来年度以降も応募の申請はしていく。

**問** 地域経済活性化対策での起業支援の内容は。申請は着手前が必須か。町予算対応により起業に不都合もでてくる場合もあると思うが。

**答** 企画観光課長 飲食店2件となる。この補助金のみならず事前申請が基本。急ぐ場合は補助対象以外の部分を先に進めてもらうなど相談はしている。

**問** 歳入の障害児の通所給付費負担金が減額となっていてその原因は。

**答** 健康福祉課長 当初、

大沢の新しい施設の利用者を多く見込んでいたが減となり、歳出の自立支援給付費が減額となったため。

**問** 町営住宅に防犯カメラをつけるということで、メンテナンスや監視はどのようにするのか。

**答** 産業建設課長 入居者からの不審者情報があり、防犯上設置するもの。メモリーカード式で何かあれば確認できるようになる。

**問** 生涯学習センターの管理で、シルバー人材センター委託料が減額となっているがその内容は。

**答** 教育委員会事務局長 午後5時以降の管理や施設を委託していたが、シルバーでの対応が難しくなり減額とした。今後の対応は、宿直と利用者にお願いする。

## 西豆衛生プラント 組合規約一部改正



第4回定例会 議場の様子

西伊豆町と共同で新たに建設する斎場に関する事務を一部事務組合で行うため、既存の西豆衛生プラント組合の名称を変更し、共同処理する事務に新たに火葬施設の建設に関する事務を追加するもの。

**問** 火葬施設建設業務が増えていくことになるが、事務処理はどのようになるのか。

**答** 窓口税務課長 これまでどおりプラント業務は松崎町、斎場業務は西伊豆町が担当していく。

第4回定例会意見書採択・臨時会・賛否状況一覧

意見書採択

◎伊豆縦貫道の早期全線開通を求める意見書

縦貫道は伊豆半島の経済・観光を支えるとともに、災害時の「命の道」として重要な役割を担うと期待されている。能登半島地震で道路網の脆弱性が浮き彫りとなり、伊豆半島でも同様の懸念が高まっている。  
※可決後、国の関係機関へ送付した。

第4回臨時会  
11月5日

◎専決処分の承認を求めることについて（令和6年度松崎町一般会計補正予算（第4号））

選挙関連費用を補正

問 選挙人の数がかかなり少ない地区があるが、立会人や職員の負担も考え、投票所を減らしたり、移動投票所などを設置する考えはあるか。

答 総務課長 現在は繰り上げ終了などで対応しているが、今後検討をしていかなければならない。

◎令和6年度松崎町学校給食共同調理場建設工事請負契約の変更について  
問 建設物価はどンドン上がっているが、いつの時点での単価を使っているのか。

答 教育委員会事務局長 国県などの通知により、令和6年3月以降に設計積算するものについては、令和6年度の単価を使用し変更した。

◎令和6年度道路メンテナンス事業伏倉橋橋梁補修工事請負契約について  
問 国庫補助率が当初の61%から22%に下がっている理由は。

答 産業建設課長 国は新しい工法などの活用を推進している。この工事は従来工法で実施し、工事費は抑えられているが、補助率も抑えられている。

第4回臨時会・第4回定例会の概要・賛否状況一覧

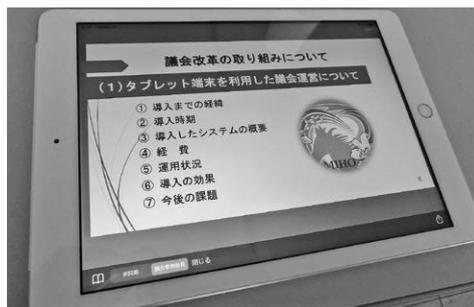
議会名	議案番号	件名	藤井昭一	菜野良枝	高橋良延	田中道源	小林克己	高柳孝博	藤井要	議決状況
第4回臨時会	議案第74号	専決処分の承認を求めることについて（令和6年度松崎町一般会計補正予算（第4号）） 衆議院解散総選挙実施に伴い選挙費用などの補正をするもの。	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第75号	令和6年度松崎町学校給食共同調理場建設工事請負契約の変更について新規労務単価の早期採用、技能労務者への適切な賃金確保に伴う増額契約。（契約先：河津建設㈱、契約金額：1143万5600円増の3億2823万5600円）	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第76号	令和6年度道路メンテナンス事業伏倉橋橋梁補修工事請負契約について新規補修が必要の判定結果に基づき実施する補修工事契約。（契約先：株玉組、契約金額：6314万円、工期：令和7年3月21日まで）	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
第4回定例会	議案第77号	西豆衛生プラント組合規約の一部を変更する規約について西伊豆町と松崎町が共同で新たに建設する火葬施設の事業を追加し、組合名を「西豆広域行政組合」に改めるもの。	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第78号	静岡地方税滞納整理機構規約の一部を変更する規約について税制改正により創設された森林環境税及び特別法人事業税の徴収を静岡地方滞納整理機構で引き受ける事務に追加するための変更。	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第79号	令和6年度松崎町一般会計補正予算（第5号）について歳入歳出に1億2271万円を追加して補正後の額を48億2848万円（2.6%増）とするもの。	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第80号	固定資産評価審査委員会委員について現委員の石田博之氏の任期満了に伴う再任。	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第81号	教育委員会委員の任命について現委員の齋藤紀子氏の任期満了に伴う再任。	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第82号	損害賠償の額の決定及び和解することについて10月のパッカー車物損事故について、損害賠償額を決定し和解するもの。	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	意見書案第4号	伊豆縦貫道路の早期全線開通を求める意見書の提出について住民の安心安全な生活を守るため早期開通要望の意見書を提出するもの。	○	○	○	○	○	○	○	原案可決

賛成：○ 反対：× 欠席：-

総務常任委員会 視察研修

10月9日から2日間、  
 当町における議会改革な  
 どの参考とするため、茨  
 城県と千葉県を視察した。

茨城県美浦村議会



▲議会で使用されているタブレット

美浦村議会では、主に  
 タブレット端末を使った  
 議会運営、ユーチューブ  
 動画配信などについて視  
 察・研修を行った。

美浦村議会は、平成25  
 年にタブレットを導入し、  
 平成26年には紙の議案を  
 廃止するなど先進的な取  
 り組みを行っており、近

年多くの視察を受け入れ  
 ている自治体である。

意見交換では、美浦村  
 議員から「タブレットを  
 使用することで議案など  
 がペーパーレス化され、  
 自宅に書類が溜まらなく  
 なった」、「事務局では紙  
 の資料配布などがなくな  
 り、事務負担が軽減され  
 た」、「コロナ禍もあり、  
 全員でオンライン会議が  
 できるような環境を整備し  
 た」などの意見が出た。



▲美浦村議会との意見交換



▲美浦村議会議場にて

ユーチューブでの議会  
 動画の配信については、  
 事務局が編集をして2分  
 から3分の短いものを公  
 開していた。

一方、議会広報につい  
 て、区（自治会）に入っ  
 ていない人や、多くの人  
 が見ることができるよう  
 に、コンビニなどにも置  
 かれていた。また、紙面  
 に「追跡」という項目を  
 設けて、一般質問でやつ  
 たことが実現されている  
 ことを調査しているとい  
 うことであった。

ふるさと回帰支援センター

首都圏で全国の移住相  
 談を行う「ふるさと回帰  
 支援センター」を視察。  
 松崎町にはワンストップ  
 で移住対応ができる人が  
 おり、移住相談をつなぎ  
 やすいとのこと。伊豆へ  
 の移住は20代から70代と  
 幅広く、山も海もあり、  
 地域の人柄などで移住を  
 決める人が多いという。  
 移住者は、その土地に馴  
 染めるかどうかが心配事  
 であるため、相談セン  
 ターでも地域とのつなが  
 りを大切にしよう薦め  
 ているということであつ  
 た。



▲支援センター内にある静岡県移住相談センター

賀茂地区市町  
 議会議員研修会



10月11日、西伊豆町健  
 康増進センターで、毎日  
 新聞論説委員の人羅格氏  
 による「人口減少下の地  
 方議会の役割と改革につ  
 いて」の講演を聴講した。  
 講演では、住民視点で  
 の議会改革の4つのポイ  
 ントとして、①多様な住  
 民の意見の吸収②議論・  
 討論の活性化③改革サイ  
 クルの構築と成果の公表  
 ④議会活動の公開につい  
 ての解説があった。

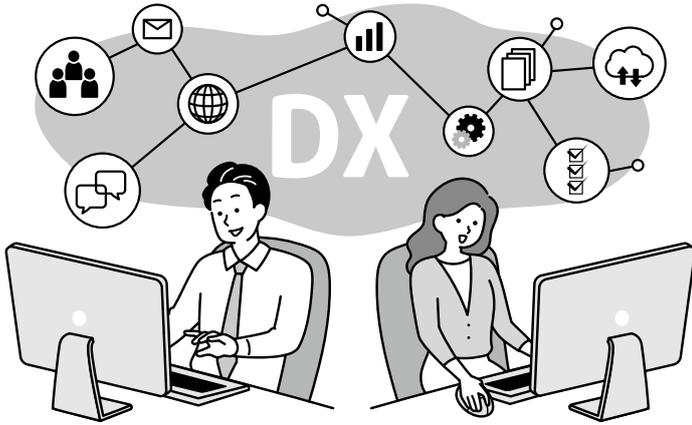


高柳 孝博 議員  
たかやまき たくひろ



問 庁内DXの推進は

答 端末更改と人材育成で



庁内のデジタル化による  
改善は進んでいるか？

**問** 役場庁舎内のインターネット仮想化事業の進捗状況と評価は。

**答** (町長)

物価高騰の影響で入札が不調となり、今回の仮想化については断念する。現状を当面継続することとし、耐用年数を迎えるインターネット用端末を更改する。

**問** DX推進のための人材育成が必要と思われる。人材育成目標値と成果をどのように考えるか。

**答** (町長)

DXの推進にはデジタル技術を活用できる人材が必要であり、4月から専門の人材を受け入れている。

一方で、令和6年2月からDXリテラシー研修を実施し、職員の資質向上と今後の人材育成をどのように進めるべきか実証実験的に進めている。職員を育成し、役場全体のDXに関する知識を高めていきたい。

問 町の文化財保護は

答 データ化の検討で

**問** 長八作品を3Dデジタル化することによって、保護と活用がよりできる

ようになるかと考える。

・被災時の復元データとしての活用や、町の活性化のために観光産業やブランド作りに貢献できるようにする考えはあるか。

・町の資料をデジタル化してチャットで見られるようにする計画はあるか。

**答** (町長)

文化財を次世代に残すためのデータは貴重であり、必要性は強く感じている。資金の問題はあるが、何とかやれる方向を探して進めていきたい。

**答** (教育長)

町史編さん室に古文書が多くあるが、内容の精査・整理ができていない。これらをひもとき、整理整頓をしてデータベース化を図っていきたい。

問 産業の振興施策は

答 補助金活用などで

**問** イノベーションによる産業の振興について、子育てや福祉の充実には

地域経済の成長が必要と考える。観光と産業への新しい技術を使った施策・目標・成果と今後の取り組みをどう考えるか。

**答** (町長)

人口減少が進む中で、あらゆる分野で人手不足が懸念されており、その改善策として、DXにより省力化・効率化を図ることが求められている。

松崎町DX推進計画で目指す姿は、テレワークにより場所などの制約を受けない働き方、新たな観光サービスの提供などを目標としている。また、民間の事業所においても、小規模事業者持続化補助金を活用するなどして取り組んでいたかといと考えている。

問 重点実施政策と成果は

答 住民参加の町づくりを推進



藤井 要 議員



問 町長就任後3年を経過したが、就任時に思い描いた政策は実現できたのか。また残り1年に懸ける想いを伺う。

答 (町長)

命を守り・人に寄り添う防災、福祉と医療の充実、大学などと連携した教育環境づくりを掲げ、コンパクトタウン松崎の実現に向けてきた。

成果としては、新港湾での海上輸送訓練や青森県今別町との災害協定、

結婚新生活支援事業などを行ってきた。今後の課題に向け津波避難、ごみ処理施設、伊豆まつざき荘の経営立て直しなど丁寧に対応していく。

答 (副町長)

町の課題は防災・交通・医療とさまざまあるが、住民生活の基本的な部分で、必ずやらなければならないと思う。松崎の未来で言うと、人が交流する・つながる・一緒に集う場がもう少しあつ

てもよいと思っているので、関係各課と協力して進めていく。

問 産科医廃止対策は

答 地域連携で取り組む

問 下下市の産科がなくなると、地域の妊産婦の方々に不安を与え、生活経済的面からも影響は大きい。赤字であっても地域に残すべきではないか。存続に向け、国や県への要望はされているのか。

答 (町長)

賀茂地区全体、県の保健師を中心にとのような対策ができるか議論が始まっている。

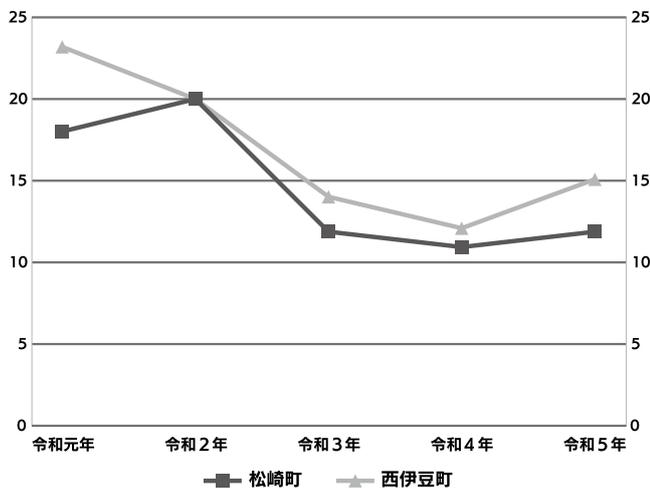
下下市が助成をとの話だが、松崎町でもいろいろ制度を活用しながら安心して産めるような対策を考えていく。

問 社協との連携強化は

答 12月の理事会で協議

問 松崎町社会福祉協議

直近5カ年の出生児数  
出生児数  
(松崎町・西伊豆町)



参考：令和5年度版「新南伊豆のすがた」II-4

会は、町民の身近な団体としてなくてはならないものだが、町との連携、役割分担はうまく機能しているのか。

答 (町長)

地域福祉の活性化や推進、福祉事業を行う経営基盤の強化などがうたわれている。町は、社会福祉協議会の果たす役割を念頭に補助や委託事業を行い、今後も協議を重ねて支援を継続していく。

問 町営細田住宅は、老朽化し災害対策に問題がある。移住や高齢者の居住の場として有効活用を計画すべきではないか。

答 (町長)

防災面からも安全を担保できないとのこと。移転をお願いしているが、難しいのが現状。総合計画でも取り壊しについて検討することになっているが、空き棟から解体ではなく、一遍に解体、整地をしたいと考えている。

## 問 住民満足度の高い予算編成を

## 答 必要な事業を精査する



高橋良延 議員



**問** 職員がいない、お金がないと言っている中、住民満足度を図る予算編成にどう取り組むのか。3月議会施政方針で述べた事務事業の見直しはされたのか。

**答** (町長) 予算編成では、第6次総合計画の5本の柱の具現化に取り組み、事業の見直しは、これから予算査定の中で精査していく。

**問** 財政が厳しければ、

しっかりと財政計画を作り、根拠を示すべきでは。

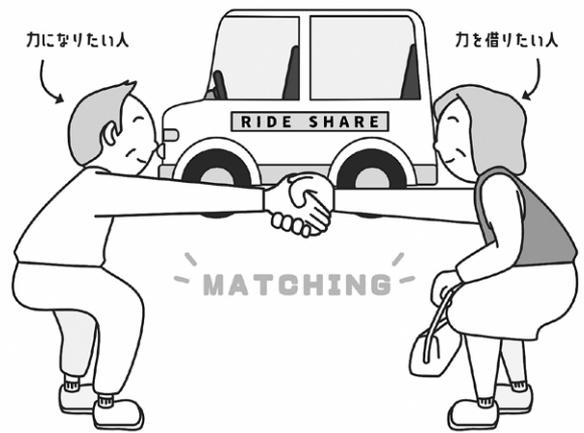
**答** (町長)

財政計画は、情報や資料の収集に努め、今年度中には完成予定である。

**問** ライドシェア導入は

**答** 課題を見据え対応

**問** 県知事が全力を挙げ、住民の新たな移動手段を確保するための公共ライ



### 公共ライドシェアとは

自治体やNPO法人などが主体となり、自家用車を利用して、利用者の移動ニーズに応じて運行される有料のサービスです。

料金は、公共交通と同様に比較的安価であることが多いのが特徴です。

ドシェアは、進めていく価値はあると思うが。

**答** (町長)

公共ライドシェアの可能性を検討したいと考えているが、地域の理解・協力や事業の継続性に課題がある。ライドシェアの課題を見据えながら進めていきたい。

**問** 美しい村の地域資源は

**答** 次世代に引き継ぐ

**問** 美しい村推進委員会は1年以上開催されず、

景観審議会は一度も開催されていない。係員も1人で、これでどのように美しい村づくりを推進するのか。

**答** (町長)

委員会は1年以上開催していないが、委員数の見直しも考えている。景観審議会は、職員の長期休暇などで未開催である。職員募集も行っているが、課内業務の配分の見直しをして対応するとともに内外の協力を得ながら進めていく。

**問** 住民の声を聞くと言いながら、町内の各分野の意見を聞く場の委員会が未開催なのはどうか。

**答** (町長)

別の場で意見を聞いているが、今後担当課と協議して進めていく。

**問** 石部棚田、なまこ壁の建造物、桜葉の3つの地域資源をどのように保全し、活用していくのか。

**答** (町長)

3つの資源は、町特有のもので、次世代に引き継いでいかなければならない。担い手不足など課題を抱えているが、解決に向け取り組んでいる。

**問** 今年度、新規事業で予算計上した、なまこ壁建造物の改修補助はどうなっているのか。

**答** (企画観光課長)

審議会が未開催で、補助の前提となる景観資産認定ができていない。

問 耐震岸壁の要望は

答 今回はしていない



小林 克己 議員



耐震岸壁工事はいつされるのか

問 地域振興のため重要な役割を果たすことが期待される港湾で、国が指定した港湾を「特定地域振興重要港湾」としている。港湾事業の推進など国による積極的な支援を受けられることができる港湾として松崎港は指定されている。

令和6年の能登半島地震の後に使えた港は、耐震岸壁工事が完了した港だけであった。

一方で、伊豆半島の西側で耐震岸壁工事がされている港はない。

今年度、東京で開催された「特定地域振興重要港湾活性化協議会」に町長は出席されている。協議会で耐震岸壁工事の要望をしたのか。

答 (町長)

沼津港と松崎港二つ合わせて観光の目的で特定地域振興重要港湾となっている。今回の協議会では、耐震岸壁工事への要望はしていない。

問 再入団の回数の規定は

答 回数の規定はない

問 「松崎町非常勤消防団に係る退職報償金の支給に関する条例」により、退職報償金は、勤務年数・階級に応じて支給される。

仮に団員の階級で35年勤務した場合、退職報償金は30年で頭打ちになるので、30年以上勤務計算となり68万9千円となる。

しかし、5年ごとに再入団を繰り返した場合、20万円を7回支給されるということでよいか。

答 (総務課長)

5年で退団してすぐに入団はありえない。

問 例えば、消防団に5年勤務してから退団すれば、退職報償金が支給される。

一度よそで働き、当町に戻り再入団して5年勤務すれば、退職報償金は再び支給されるのか。

答 (総務課長)

支給される。

問 再入団の回数の規定はあるか。

答 (総務課長)

回数の規定はない。

問 花火大会での避難経路周知は

答 観光協会がすべき

問 南海トラフ地震臨時情報の特別な注意の呼び掛け終了日翌日の夏祭りの花火大会に、大勢の人々が海岸に集まった。

その際に、避難経路や避難ビルを説明する町内放送はなかった。なぜ放送をしなかったのか。

答 (町長)

花火大会は観光協会が主催である。避難経路などがわかるように、観光協会に観光客への周知をするように事前に指示した。観光協会の花火の放送設備で避難経路を放送するべきである。

消防団は依頼を受け、観光客がパニックにならないように避難経路を確保した。



高校生の通学費補助は難しいと言うが・・・



西伊豆町の通学費補助の詳細  
(西伊豆町ホームページ)



田中道源 議員



## 問 高校生の通学費補助は

## 答 具体的な検討に至らず

**問** 西伊豆町と同じ程度の補助を出せないか。

**答** (町長)

地元の高校へ通う生徒、町外へ通う生徒への助成の公平感、平等感といった観点から、制度設計を慎重に考えなければいけない問題。経済的な負担が大きいのは町外へ通学している家庭と認識しているが、補助に踏み切れることは現時点では難しい。

**問** 町の子育てに対する姿勢は予算に現れてくるかと考えるが。

**答** (町長)

安心して子どもを産める環境づくりとして、結婚新生活支援、出産準備支援、出産祝い金などの支給、産後ケア事業、こんにちは赤ちゃん訪問事業のほか、児童館事業、小中学校の通学費補助、放課後児童クラブの運営、小中学校に入学または中学校を卒業する児童生徒の保護者への祝い品支給、大学進学などの際の教育

資金利子補給や奨学金などの事業を行っている。

幼・保・小・中・高・支援学校と、他市町と比べ文教施設が整っており、一体感を持った教育環境を醸成するために、学習環境や活動面の予算をしっかりと確保することが大切だと考えている。

**問** 3月の実証実験は

**答** 住民参画の実験

**問** 3月に自動運転の実証実験が予定されている

**答** (町長)

県が車両を支援している関係もあり、県が委託している事業者に対して、実験対応などの人件費や、運転ボランティアの人件費分を支払う予定。

**問** 電子通貨の導入は

**答** 現状では厳しい

**問** 西伊豆町電子地域通貨「サンセットコイン」を、松崎町内の店舗でも使えるように、町として西伊豆町へ働き掛けることはできないか。

**答** (町長)

西伊豆町への働き掛けの前に町内の店舗が対応してくれるかどうかを先だと考えている。商工会などを通じて導入について確認しているが、前向きな回答はない。サンセットコイン導入の懸案材料として、ポイント還元分の行政負担の点がある。

**問** 西伊豆町では、行政負担分を過疎債のソフト事業で工面している。試算では、松崎町は2千万円の負担で約8億円の経済効果が見込める。また、両町の商工会が協力して事業を実施する形であれば費用が抑えられると思うが、打診できないか。

**答** (町長)

お金の流れも含め、西伊豆町に調査したい。

### 問 職員の離職を防ぐ施策は

### 答 業務過多防止を係内で調整



菜野良枝 議員



**問** 退職者の増加による業務処理能力低下にどう対応するのか。

**答** (町長) 中途採用で社会人経験者を採用することにより、即戦力として業務を担ってもらっている。

**問** 社会人経験者の職員随時募集の成果はあるか。

**答** (町長) 早速応募があり、筆記・面接試験を経て、合格・採用日程を調整中。

**問** 業務効率化の現状は。

**答** (町長)

紙や押印によるものがほとんどでデジタル化や電子申請手続き導入のための作業も進んでいないので対応を協議している。

**問** 若手職員のプロジェクトチーム、DX推進チームの取り組みは。

**答** (町長)

窓口収納キャッシュレス決済、体育施設予約システムなど、導入したシ

ステムの横展開を図っていききたい。

**問** カスタマーハラメントへの対応は。

**答** (町長)

名前入りの職員配置図を廃止、機構図のみとし、名札を課・職名と氏のみ表示にする。録音機能付き電話の導入も検討している。

**問** 鮎川地区の活用は

**答** 農地と防災公園に

**問** 獣害防止柵設置工事の進捗は。

**答** (町長)

農地全体を囲う柵の設置は、一部区間を除き、ほぼ完了している。

**問** 耕作の状況は。

**答** (町長)

地権者33人中、8人は



防災公園などの活用が期待されている鮎川地区

自分で耕作。残り25人の農地については、5人が借り受け、営農する計画。

**問** 防災公園建設のための委員会設置の考えは。

**答** (町長)

令和7年度に基本計画の策定を予定。策定にあたり、住民参加型のワークショップなどで意見を吸い上げる場を設けたい。

**問** 停電時の対応は

**答** できる範囲で協力

**問** 住民への停電情報の周知は。

**答** (町長)

東京電力から周知の依頼があり、内容を確認してから放送を行っている。

**問** 町ができる対応はないか。

**答** (町長)

停電の原因が倒木などで、東京電力で対応し切れない場合には、町で倒木を処理している。

## 問 町内の後継者問題は

## 答 第三者承継を推進

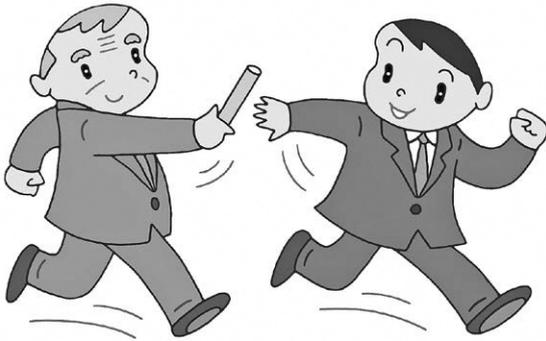


藤井 昭一 議員



### 第三者承継とは

飲食店や商店などのさまざまな業種で、「後継ぎがいなくて廃業しなくてはならない」という問題が全国的に起きています。親族や従業員以外の第三者に事業を継いでもらうケースが今、注目されています。



**問** 後継ぎがいなくて廃業する町内の飲食店や商店などがある。事業承継についてどう考えるか。

**答** (町長)

将来に向けた持続可能な地域づくりのためには、第三者への事業承継が必要になってくる。地域の産業をなくさないように、商工会や観光協会、金融機関などと連携し、第三者承継の支援を実施していきたい。

**問** 他地域の取り組みを見ると、第三者承継に地域おこし協力隊を使っている。当町でもその考えはないか。

**答** (町長)

状況によっては活用検討することも考えられる。

**問** 農業従事者が減少し耕作放棄地がますます広がっていく。町としてどのような策があるか。

**答** (町長)

農地調査を行い、集約化の検討を進めている。

効率よく耕作ができるような形で、できるだけ耕作放棄地を減らすように考えている。

**問** 地域おこし協力隊の

制度を活用して、農業従事者を増やす取り組みは考えられないか。

**答** (町長)

町内に人がいない中で、協力隊を募集する事も検討する必要がある。

**問** 福祉避難所の確保を

**答** 伊豆半島全域で

**問** 地震津波災害発生時に災害関連死を防ぐため、高齢者や障がい者が安心して避難生活を送れる福祉避難所を確保するようお願いしたい。昨年の議会でも同じ質問をしたが、その時は町内に適した施設がなく、広域で考えるという回答だった。その後どうなったのか。

**答** (町長)

ホテルなどを福祉避難

所に活用することは必要だと思っている。地震発生後、できるだけ早く移動ができるような場所を考えなければならぬと思っている。

**問** 堂ヶ島などのホテル

は、西伊豆町の指定避難所になっているが、松崎町としても福祉避難所に使わせてもらえるような話はないか。

**答** (町長)

伊豆半島7市6町の広域災害協議会で、具体的な話を進めていきたい。

**問** 子ども会の存続は

**答** つながりを大切に

**問** 少子化の中、子ども会をどう存続するか。

**答** (町長)

子どもの人数が非常に少ないが、エリアマネジメントなどを考えて、子どもたちのつながりをつくっていくべきであると考えている。

次の定例会は、3月4日(火)からの予定です。

## 議会のらごき

### 10月

- 4日 賀茂郡町議会議長会議 (東伊豆町)
- 7日 広報編集委員会・特別委員会
- 9日～10日 常任委員会視察研修 (茨城県他)
- 11日 賀茂地区市町議会議員研修会 (西伊豆町)
- 16日 広報編集委員会
- 22日 静岡県町村議会議長会定期総会 (静岡市)
- 24日 議会だより第145号発行

### 11月

- 5日 第4回臨時会・特別委員会
- 13日 町村議会議長全国大会 (東京都)
- 14日 賀茂郡町議会議長会県外視察 (東京都)
- 18日 議会全員協議会・特別委員会
- 26日 重要問題懇談会・議会運営委員会  
広報編集委員会・特別委員会

### 12月

- 3日～4日 第4回定例会
- 9日 特別委員会
- 25日 議会全員協議会
- 27日 伊豆縦貫道期成同盟会県要望活動

※記載している特別委員会は、「議会基本条例制定特別委員会」です。

表紙の写真「消防団出初式パレード」は文化協会写真部より提供。



この人に  
聞きました④  
エコトーンオーナー  
森孝之さん

町内で活動している皆さんを紹介するコーナーです。今回は、ツアー業などを開業した森さんとパートナーの大池さんにお話を伺いました。

○活動の内容について教えてください。

大学生のときに岩地を訪れて以来、昔懐かしい雰囲気になつて、松崎のファンになりました。念願叶い、令和6年4月に岩地に移住。令和6年12月に、自然体験ツアー・

ゲストハウスのお店「エコトーン」を開業しました。自然体験ツアーにより、松崎の豊かな自然に付加価値を付けたいと思っていて、普段あまり自然に触れる機会のない都会の人たちに、自然へ目を向けるきっかけがつかれたら嬉しいです。ゲストハウスも、できる限り自然に負荷を掛けない宿を目指しています。

○課題や今後の活動は。

松崎の素敵な自然を活

用し、観光資源の一つにしたいと思っています。また、自然関係の仕事は職の数が少ないため、自然の中で働きたい人たちの働く場所、雇用の創出もできたらと考えています。

○町への要望はありますか。

耐震関係が心配なので、家屋の部分的な耐震工事に対する補助などが充実するとありがたいです。

(聞き手 編集委員長)

#### 発行責任者

議長 深澤 守

#### 編集委員長

田中道源

#### 編集委員

藤井昭一  
菜野良枝  
高橋良延  
小林克己  
高柳孝博  
藤井要

## 海鳴り

まちづくりの基本は「人づくり」にあります。

持続可能で魅力的なまちづくりには、インフラや建物といった物理的な要素だけでなく、そこに住む人々の成長と活躍が欠かせません。

地域の課題を発見し、解決する力を持つ人材を育てることは、町全体の発展に直結します。その人材を育てるためには、教育や交流の場を提供し、住民同士がつながり、みんなが学び合う環境を整えることが大切です。

また、多様な価値観を尊重し、若者や高齢者、移住者など、さまざまな立場の人々が共に活躍できる場をつくることで、地域の活力、人が成長すれば、町も成長します。

まちづくりは、人を育て、地域全体の可能性を引き出す活動であると考えます。

(議長)